

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム延寿園 ユニット 寿	評価実施年月日	平成22年1月15日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年1月26日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所としての理念を作成し、事業所内に掲示している。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員は毎日、午前の引継ぎ時に理念の復唱を行い、理念の把握と共有に取り組んでいる。</p>	○	<p>職員一人ひとりが理念を実際の介護に、より活かせるよう考察し、確認しあう場を増やしていきたい。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>地域代表、家族代表等の参加される運営推進会議や、家族交流会等を通して事業所の理念に基づいた取り組みを発表し、理解を得るよう努めている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>運営推進会議を通じ、気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけているが、あまり進んでないのが現状である。</p>	○	<p>盆踊りなどのイベントなどを通じ、もっと気軽に来てもらえる関係作りをしていきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>夏に事業所主催の盆踊り大会を行い、地域の方々にも参加していただいているほか、デイサービスを地域の方々にも利用していただくべく開放している。</p>	○	<p>今後も盆踊りは継続し、地域交流の場として定着を図るとともに、地域の方々に事業所内の施設を活用してもらえるよう働きかける。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>事業所内の施設を利用し、地域の方々向けに、介護に対する実践講座を行っている。</p>	○	<p>運営推進会議を通じ、地域として事業所側に期待しているものを把握し、それを実現できないかを検討する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>外部評価における指摘については、職員間のケアカンファレンスで取り上げ、検討し、改善に努めている。</p>	○	<p>今後も評価の内容を精査し検討することで、サービスの改善を行ってきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>会議では行事や入居者さまの介護事例など事業所としての活動内容を報告し、委員の方々と意見交換を行って、サービスの向上に努めている。</p>	○	<p>今後は運営推進会議を通じ、地域密着型として地域の人とのつながりを深めていけるよう取り組んでいきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営推進委員会以外では、周辺地域のグループホームとの連絡協議会の場で、町の担当者と話し合う機会を持っている。</p>	○	<p>今後ともサービス向上のために町担当者と協議する場を設けていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>管理者や一部の職員は、研修等を通して成年後見制度などの権利擁護について学んでいるが、具体的な活用についての検討にまでは至っていない。</p>	○	<p>権利擁護についての知識や理解を各職員が深め、いつでも実務に反映できるようにしていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>高齢者虐待防止には各職員が常に意識して業務を行っており、虐待になりかねない事例については、ケアカンファレンス等で話し合い、防止に努めている。</p>	○	<p>虐待の定義や実態について、職員それぞれが深く学ぶ機会を持ち、さらに意識を高めてサービスの向上につなげていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約・解約いずれにおいても、入居者さまおよびご家族さまへ十分な説明をし、理解と納得をしてもらえるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者さまには介護サービス計画作成時に、事業所に対する要望を聞くほか、生活の中で出てくる入居者さまの要望を職員が聞き取り、ケアカンファレンスで議題として取り上げるなどして、運営に活かしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に1度、入居者さまの様子やお小遣いの使用状況の内訳を文書にして郵送しているほか、ご家族さまの来園時・その他必要に応じて随時報告している。		今後もご家族さま向けに入居者さまの様子をきめ細かく伝えられるようにしていきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に1回、ご家族さま向けにアンケート調査を行っているほか、運営推進会議でのご家族代表の意見も参考にしている。また、ご意見箱を設置し、ご家族さまの要望等を書き込んでもらえるようにしている。		ご家族さまの具体的な要望をなかなか聞くことができないのが現状であり、もっと気軽に意見や要望を聞けるよう、アンケートなどを通じて行っていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2か月に1回、グループホーム職員の全体会議において、職員の提案・意見を検討できる場を設けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者さまに対し、きめ細かな対応ができるよう、夜勤帯を除いたすべての時間帯で2人以上の職員が勤務する体制を取っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットごとの職員配置を固定し、離職者等で入れ替えを行う際は、入居者さまの相性などを考慮に入れて行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>実践者研修や管理者研修を始め、講演会やシンポジウム等の参加を職員・管理者に促している。</p>	○	<p>今後も職員のスキルアップのため、研修等を受ける機会を増やしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同じ地域内の同業者で構成されるグループホーム協議会に参加し、意見交換をしているほか、同協議会を通じ、他グループホームの見学も行っている。</p>	○	<p>今後も交流を深めることで、サービス向上に活かしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者・運営者が個別に職員の不満や悩みを聞くよう働きかけ、実行している。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は個人の勤務状況をチェックし、必要時には個々に話し合うなどして、意欲を持って働ける環境作りに努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居契約前に、入居者さまおよびご家族さまと面談を行い、何に困っているのか、何を求めているのかを聴く機会を設けている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居者さま同様にご家族さまにおいても、入居前の面談で、困っていることや求めていることを聴き取る機会を設けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の面談を基に、必要なサービスを見極めて柔軟に活用できるような対応を行っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居者さまやご家族さまが希望する場合は、入居前に事業所内部を見学してもらい、事業所内の様子を把握できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	家事などできることは手伝ってもらい、入居者さまの若い頃の話(子育て・仕事・戦争体験など)を聞き、学ぶことで人生の先輩として敬う関係を築いている。	○	今後も入居者さまと家族的な関係を築けるよう努力していきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ときにはご家族さまに本人を連れて外出してもらったり、通院に同行してもらうなど、事業所と家族が協力して入居者さまを支援する関係作りに努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族さまと入居者さまのこれまでの関係に留意しながら、お互いに対する想いを職員が仲立ちして伝え、よりよい関係が築けるよう支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	遠方に住む入居者さまのご親族へ、本人が葉書を書くなどの支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者さま一人ひとりの個性を考え、職員が間に入って会話の仲立ちをし、毎日の食事や体操・レクリエーションのほか、行事も全員参加で行うことで、孤立を防ぐ働きかけを行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	グループホームを退居して、同じ事業所内の高齢者専用賃貸住宅に移った元入居者さまやご家族さまとは交流を続けているが、総じて退居後は連絡が途絶えがちになっている。	○	退居後も入居者さまやご家族さまのニーズを把握できるような良い関係を築いていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	可能な限り本人に確認し、困難な場合は日常生活の様子やご家族さまの意見を参考にし、その人らしい生活の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者さまごとにフェイスシートを作成して、ご本人や家族等から得られた情報を随時加え、更新している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護計画で日課表を作成するほか、アセスメント・モニタリングも合わせて入居者さまの現状把握を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画作成の際は、本人・ご家族さまの意向を踏まえてケアカンファレンスで職員相互の意見を聞いたうえで、介護支援専門員の指導のもとに行っている。	○	今後も介護計画を充実させるために、職員相互、ご家族さま等との連絡を密にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に見直しを行っているほか、入院等を経て入居者さまの状態に変化が出た際は、その都度計画を改定している。	○	入居者さまによっては、期間通りに見直しが行えていない場合もあり、今後は期間通りに見直しが行えるように努める。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者さまごとに介護日誌を作成し、気付いた点を職員が記録する一方、主任・計画作成担当者がチェックし、介護計画の作成に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所内の他サービス(訪問介護・居宅支援・デイサービス・高齢者賃貸住宅)と連絡を取りあい、本人にとって最適なサービスを提供できるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年に数回、ボランティアの方に来ていただいている。	○	今後も事業所として利用できるものがあれば、積極的に利用していきたい。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	グループホームとして、他サービスを利用するための話し合いはほとんど行っていない。	○	今後は地域内のサービス事業者等の連携を強め、入居者さまに柔軟な対応ができるようにしていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	グループホームとして、地域包括支援センターとの協力体制はほとんど取れていない。	○	入居者さま本位の対応ができるような協力体制のあり方を今後考えていきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	ご本人・ご家族さまの希望や都合をもとにかかりつけ医を決め、変更の場合はその理由を本人・ご家族さまに説明して納得していただけた場合のみ行っている。	○	ご本人とご家族さまの希望を大切に、納得していただける医療体制の構築を行っていきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要に応じ、専門医の受診を行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所内に常勤の看護師が勤務し、健康管理等の支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には医療機関と連絡を取り、必要な情報を提供して入居者さまにとって負担の少ない環境作りに協力するなど、早期退院に向けた情報交換を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期医療についての必要性は感じているが、受け入れ側としての体制作りは進んでいないのが現状である。	○	今後、終末期医療に向けた勉強や体制作りを進めていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居者さまの状態により、病院等と事業所として対応可能な状態・そうでない状態について、その都度連絡・打ち合わせを行い、役割分担をして取り組んでいる。	○	今後も事業所として将来的な変化に対する対応を協議して取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>必要時には、ご家族さまおよびケア関係者と話し合いや情報交換を行い、入居者さまの住替えがスムーズに行えるよう心がけている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>各介護員は言葉遣いに気をつけて対応しています。時おり、入居者さまに対して友達感覚や幼稚言葉を使ったりすることがある。</p>	○	<p>職員の目に余る行動・言動が見られる場合は、お互いに声かけしたり、注意したりすることも重要である。個々の意識を高めること。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者さまからの思いの訴えや声をかけてくれることがほとんどないため、思いや訴えを聞きだす等の対応を心がけています。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>行事参加や物事に対しての無理強いさせることなく、個人のペースに合わせるよう努めていますが、機能低下の予防面やリハビリ面で参加していただくのが無理強いになってくることもあるようです。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望を言えない入居者さまが多いため、定期的に声をかけて出掛けています。男性入居者さまに関しては職員が散髪することもあります。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>昨年度までは月2回の調理実習を職員と一緒に下準備し、作った料理を食しておりましたが、今年に入ってからは調理実習にかかる材料費や経費負担が大きいため中止しています。</p>		<p>調理実習ができない分おやつ作りに工夫し、入居者さまも簡単なことに手作り参加していただこうと思います。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつは皆さん、楽しみにされているので毎日、塩分・糖分を注意して提供していません。	○	カロリー等高めのおやつは、月一度の誕生会にケーキを食べたり、行事での果物狩りやジンギスカン等を行うときに満足していただけるよう、今後も続けていきたいです。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間をみての声かけや促しを行い、入居者さまの状態や訴えにその都度対応しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	とくに希望が聞かれないため、こちらからの声かけにて入浴されています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者さまの訴えや状態をみて、対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	年行事(果物狩りや盆踊り等)に参加していただいたり、月に一度は近くのお店に散歩に行かれたり、買い物へ出かけられます。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理はグループホームですが、出かける際にできる方は会計時にお財布を渡し、払っていただく等、行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体調や天候をみながら、近所を散歩したり日光浴や買物に同行していただいている。	○	今後も継続して、可能な限り外出の機会を作っていきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	近所の公園に行ったり、お祭りや果物狩り等には出かけているが、各入居者に個別に対応するまでには至っていない。	○	個別に対応できる機会があれば、できる範囲内で対応していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者さまから希望があるときは、電話の取次ぎを行っている。	○	電話等の連絡に加え、年賀状・暑中見舞いなどの便りを出してもらう機会を増やしていきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族さまの訪問の際には挨拶を欠かさず、いつでも訪問して頂けるよう明るい雰囲気作りを心掛けている。	○	これからも気軽に訪問して頂ける雰囲気を大切にしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の問題・重要性を各職員が理解し、拘束をしないケアを行っている。	○	身体拘束の具体例を各職員が確認し、何が拘束にあたるのかをより正確に理解していきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関や居室の鍵はかけず、各フロアの出入り口に設けたオートロックは入居者さまの不穏時など特別な場合を除き、鍵を掛けていない。	○	今後も原則として鍵を掛けないケアを続ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	各職員が入居者さまの所在や状態を常に把握し、申し送りにて情報の共有に努めています。	○	今後も安全に配慮し、事故ないように行っていきたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	各入居者さまの認知レベルやADL等に合わせて持ち物の管理を行っている。	○	今後も同様の取り組みで事故防止に努めたい。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒などのリスクについて職員間で検討し、知識の共有と事故防止に取り組んでいます。	○	事故、ヒヤリハットの事例検討を行い、さらなる事故防止に努めていきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署主催の救命講習に職員が参加しています。	○	全職員が講習を受け、対応できるようにしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時の避難経路を各フロアに明記しているほか、消防署への連絡マニュアルも作成している。	○	地域の方々への働きかけがまだ不十分なため、交流が持てる場で話し合い、協力の対応を仰いでいきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族さまには入居者さまの状態と考えられるリスクについて説明し、対応の検討と理解を得られるようにしている。	○	今後も連絡を密にし、対応に取り組んでいきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックや体調変化の観察と報告をして介護員での対応と看護師の対応で処置・受診を必要に応じて対処しています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時に一人ひとりの名前の確認と服薬しやすくしたり、飲み込みが出来ているかの観察や確認・服薬後の変化の有無を見ながら毎日の支援に努めています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日常生活の中で入居者さまへの体操参加への働きかけと個別対応として廊下などを活用し、ウォーキングを実施するほか、予防のため水分補給も勤めて摂取していただいています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアと口の中の確認や観察、必要に応じて報告・対処し、手洗い等の清潔保持に努めています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量の調整、摂取しやすい副食の工夫や、水分も定時摂取以外にも積極的に水分を摂るよう勧めるなど日常的に支援しています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日頃から職員間の健康管理を行い、入居者さまの感染予防の取り組みのために必要に応じて予防接種のほかに消毒なども行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	主に調理担当者が行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節が変わる度に、玄関・談話室・各居室前などに飾り付けをしています。		桜、落ち葉、七夕、すすき、サンタクロース、お正月飾りなど。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のある飾り付けのほか、各居室・トイレ・換気・暖房等に工夫は気配りをしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話室には長いすを置いています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、使い慣れたもの、思い出のあるもの、見慣れたものなどを持って来ていただいています。配置も入居者さまの身体状況や認知の状態に合わせて設置しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	その都度、寒暖の差がないように居室のドアを開けたり窓の開閉をしたり、居室には芳香剤などを置き、廊下など温度調節は職員が行っています。		冬期間は乾燥防止に、談話室には加湿器を使用し、各居室は就寝前に濡れタオルを掛けるなど対応している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下ほか、入居者さまが集まる談話室やトイレ等には手すりを設置し、安全に歩行・リハビリできています。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	誤認や錯覚されないよう、各居室前やその他トイレや洗濯室など、名前を張っています。 入居者さまが迷われている時はその都度声かけし、確認していただいています。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋上でプランターなどの野菜の水遣りなどをしています。 洗濯物干しなどを行いながら、入居者さまと外気浴を楽しんでいます。	○	



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p> <p>① ユニットごとに掴んでいる。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない</p> <p>① 午前10時ごろと午後2時ごろに職員とゆったり過ごしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>② すべての入居者さまが自分のペースで暮らしているとは思われないが、少しでも自分のペースで過ごしていただけるよう努めていきたい。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>② 職員が笑顔で声かけ等のコミュニケーションを取ることで、生き生きとした表情が見られている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>③ ほとんどの方が自分からどこかに行きたいと話されることがないので、行事での外出が多い。出かけたいたと話されたときは職員と一緒に出掛け、安全に努めています。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 毎日のバイタルチェックは看護師管理のもとに行っています。また急変時は医療連携を元に対応しています。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>② できるだけ要望を聞き入れ、安心して暮らしていけるように努めています。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない</p> <p>① 来園された際は交流を深め、不安を取り除き、信頼関係を築けるよう努めています。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p> <p>③ 月に2～3度来客のある入居者さまもいるが、親類縁者が遠方におり、ほとんど来客のない入居者さまもいる。その入居者さまには葉書や電話にて連絡を取るようになっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大いに増えている</li> <li>②少しずつ増えている</li> <li>③あまり増えていない</li> <li>④全くいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>② 事業所主体の盆踊りや地域住民向けの介護教室・運営推進委員の他グループホーム見学などの活動を通じ、交流を深めつつある。</li> </ul>
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての職員が</li> <li>②職員の2/3くらいが</li> <li>③職員の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼすべての職員が笑顔で楽しく入居者さまと接しており、よい雰囲気の中で仕事ができている。</li> </ul>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者が</li> <li>②利用者の2/3くらいが</li> <li>③利用者の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>② とくに不満はないと話す入居者さまがほとんどであるが、話し相手がおらず、退屈そうにしている入居者さまもおり、今一歩進んだサービスを望む入居者さまがいるように見受けられる。</li> </ul>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族等が</li> <li>②家族等の2/3くらいが</li> <li>③家族等の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 家庭では絶対にできない世話をしてもらっているという感謝の言葉も聞かれ、入居当時とは明らかに表情が変わって明るくなった家族も見られる。</li> </ul>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

本人・家族にとって身体的・精神的にはもちろん、経済的にも負担の少ないグループホームを目指し、努力しています。

入居者さま一人ひとりの「その人らしさ」を大事にしながら、家庭的な温かい雰囲気のグループホーム。